

島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン



中之島

Vol.105 2017 4/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

2017 水辺最前線



ナカノシマ大学

「大阪城から見る、
城好きニッポン」

宮本裕次

申し込み受付中!



水辺最前線2017

アイデアクルーズの運航やおしゃれな川辺のテラス席が増え、ますます人が集まる中之島の水辺は今後、どんな展開を見せるのか。キーワードを通して、最新ニュースをお届けしよう。

取材・文／江口由夏(本誌)



店プロデュースの船遊び

[BAR BANKS]／[北浜ルンバ]

新生・中之島バンクスでリニューアルオープンした [BAR BANKS] は、店を飛び出して旬の食材や景色を味わえるクルーズも手がけている。船遊びのイメージがない冬期もイルミネーションクルーズは連日満席で、ベンチコートなどの防寒着が用意されているサービスは至れり尽くせり。

こちらの店舗ロゴが入ったボートが係留されているのは、店前にある中之島バンクス港。大阪国際会議場港のような、使用申請を出すことで利用できる公共船着場とは異なり、企業が管理して施設のテナントが利用できる民営船着場だ。

土佐堀川沿いの [北浜ルンバ] も店のボートを使ったナイトクルーズが人気だが、マイボートの普及はまだまだこれから。民営の港も増えて自由に発着ができれば、カスタマイズの幅がさらに広がる。



BAR BANKS



北浜ルンバ

外国人にも親切なガイド



中之島の船図鑑① 「えちぜん号」

誕生／2000年 長さ／11.5m
重さ／4.9t 乗客定員／40名
景観をダイレクトに楽しめるフルオープン型。ライトアップされた橋梁とビル街の街灯りからなる中之島西エリアの夜景を堪能できる。



中之島リパークルーズ

昨年7月、「中之島の西エリア初の観光遊覧船」というウリ文句で誕生した「中之島リパークルーズ」。ABC朝日放送の社屋前があるほたるまち港から乗船し、中之島ガーデンブリッジあたりまでの往復20分の旅。夕方からの運航なので、季節によって夕景・夜景が楽しめる。

もう一つのうたい文句は「次世代型クルーズ」というもの。写真を見ると、お客さんがヘッドフォンを装着しているのがわかるだろうか？ 日本語の音声ガイドに続いて英語によるガイドが流れ、日本の四季をイメージした和楽器の演奏で締めくくられる。はたから見れば無言の船上だが、外国人旅行者には大受け。確かに、言葉の壁のストレスもなく、乗客全員が同じように景色を楽しめる装置はまさに次世代型。

【カスタマイズ】

時代は TPOクルーズ。

中之島周辺の最新クルーズは、「カスタマイズ」というキーワードが見え隠れしている。そのままの意味でいくと、乗船するお客さんの必要に応じて、仕様を変更すること。さらに付け加えるならば、ただガイドに従って景色を眺めるだけの従来のクルーズを切り崩し、中身を練って、特定の層に向けて発信することだ。

従来のクルーズとは何だろうか？ 昭和58（1983）年に創業した中之島の水辺の古株、大阪水上バスの岸田俊徳さんにかがった。「創業当時は桜くらいしか見せられるものがなかったみたいですよ。今のように入水辺や街は整備されていなかったので」

戦前は船遊びも盛んだったが、戦時中に衰退し、戦後しばらくは作業船が行き交うだけだった。しかし大阪城築城400周年の際、船の観光を盛り上げて川に人を呼ぼうと大阪の活性化を必要とする声が高まり、大阪水上バス設立につながった。「最初は朝夕に都島の団地から天満橋を經由し、水晶橋まで通勤船を運航していて、観光クルーズはその間を埋める形で、日中に運航されていました」

バブル期が訪れると、船内で大いに飲み食いできるようなナイトクルーズが大受けするように。とはいえようやくクルーズの普及が進んだのは、2004年に大阪水上安全協会、2007年にシテイクルーズ推進

街の流行と季節に合わせて



中之島の船図鑑② 「アクアmini」

誕生／2007年 長さ／9.5m
重さ／5t未満 乗客定員／30名
通常は、大阪城から道頓堀までのクルーズで活躍している小型観光船。中之島界隈ではイベント時に登場。屋根のないオープン船なので、川面の風を体感できる。



中之島の船図鑑③ 「ひまわり」

誕生／1998年 長さ／30m
重さ／54t 乗客定員／102名
ライブやビアクルーズなどの企画モノに欠かせない、シックな見た目のパーティークルーズ船。船内の食事は、一流レストランから居酒屋風まで対応。

忍者クルーズ／寒梅ランチクルーズ

一世を風靡した大河ドラマ「真田丸」に着想を得た、大阪水上バスの「戦国忍者キッズ・真田幸村出陣クルーズ」。伊賀忍者が操縦する船上で謎解きを楽しむエンターテインメント性もさることながら、大阪城にある船着場で乗降するリアルさが好評だった。主旨はクルージングとはいえビジュアルにもこだわり、忍者の時代考証に協力したのは大阪城天守閣館長・北川央先生。大阪城側としても、新たに増える戦国ファンは大歓迎なわけだ。

大阪城をコースに入れ込んだクルーズは、ほかに「寒梅ランチクルーズ」も。「ひまわり」の船内で特製ランチを味わった後、「アクアライナー」で大阪城まで送ってもらい、梅林を鑑賞するというもの。2種類の船に乗れるのはお得感がある。

今年「幕末・維新150年」キャンペーンを行う大阪城は、大阪水上バスと新たなコラボクルーズを企画。川沿いにゆかりの史跡が点在するエリアだけに、きっと乗りごたえ充分。



協議会の設立以降。水上交通のルールが整えられ、これまで作業船中心だった船会社が遊覧船も扱い始めたからだ。さらに2009年に中之島公園の美化など、「水都大阪」を掲げた街づくりが進み、いまや中之島の水辺を舞台にしたイベントは定番になった。

実質この10年で、クルーズは多彩になった。それを後押ししたのは、まずはここ数年のインバウンド現象。市内30以上の観光施設入場と、市内の鉄道やバスの乗り放題がセットになった「大阪周遊バス」に1プロダラムとして加わっていた道頓堀のクルーズが、2015年に大ブレイク。その影響で中之島のクルーズにも火がついた。もはや多言語に対応したパンフレットを設置することは珍しくない。昨年生まれた「中之島リバークルーズ」は、潔いほど外国人旅行者をターゲットにしている。

インバウンド現象に引っ張られるように、地元大阪人が中之島の水辺を面白がった。今度は船会社が大阪の街中拠点とコラボしたり、いま流行っているものをクルーズのテーマに取り入れ、船上パフォーマンスに凝り始めた。かつてあった「お相撲クルーズ」や、昨年の「忍者クルーズ」はその例だ。

盛り上がったのは昼間だけではない。オフィスビルがひしめく一帯はかつて、夜間や休日には地元住民がゴーストタウンと自嘲するほど寂しい街だった。しかし夜のクルーズが運航を開始すると、橋や近代建築のライトアップ、川沿いでディナーを楽しめる店も登場。自家用ボートでシャンパンが味わえるなど、リッチなフルカスタマイズクルーズを企画する店も現れた。見るものが増えれば集まる人も増えてくる。それがまた新しいカスタマイズクルーズのアイデアを生み出していく気がする。

夜の水辺へ行きたくなるクルーズ

中之島ナイトクルーズ(ミュージックボート)

ナイトクルーズの人気を裏付けるように、アクアminiで夜の中の島に繰り出す「ミュージックボート」の人気もうなぎ登りだ。夜風を受けながら、ワンドリンク片手に、ミナミの老舗レコード店「ザ・メロディ」プロデュースの生ライブを聴けるというもの。オープン型の船なので、テラス席に座るお客さんとの距離も近く、川に面した公園や店の匂いが流れ込んでくる。こちらは企画サイドの意と異なり、観光客よりも大阪人に大好評とのこと。船上の開放感が、会社帰りの癒やしになっているのかもしれない。まさに「灯台下暗し」、地元の人々が夜の中之島を楽しみきっかけになっている。



中之島の船図鑑④

「アクアライナー」

誕生/1983年 長さ/28.5m
重さ/35t 乗客定員/132名
大阪城~中之島間をほぼ毎日運航中。大阪城・八軒家浜・淀屋橋・OAP港から1時間ごとに出航している。全天候型なのありがたい。



中之島ナイトビュークルーズ

観光地とは言いづらかった夜の中之島が再評価されたきっかけは、2015年9月に初めて運航されたナイトクルーズだった。外国人旅行者に人気の船旅の本数を増やすため、急ぎょ設置されたクルーズだったが、これが人気を博してだんだんと開催期間が前倒しになってきた。多言語に対応した見どころマップがQRコードからダウンロードできるなど、幅広い層に対応済み。船上から見える橋やレトロ建築のライトアップに魅せられ、クルーズのついでに立ち寄りたいたい、旅行者からは船着場近くで夕方以降に行けるスポットの問い合わせが増えているのだそう。これも船との連携しだいで、街の遊び方が変わっていく兆しかもしれない。もう「夜の中之島はつまらない」とは言わせない。

「こんなカスタマイズもありましたが…」by 大阪水上バス

カスタマイズクルーズの先導役として、これまでさまざまなアイデアを送り出してきた大阪水上バス。さかのぼれば鉄道写真クルーズやお相撲クルーズなど、今でも人気が出そうなテーマで実施してきた。昔はとにかく、船での観光を広めることが重要だった時代。本誌でコラム連載を執筆している岸田さんは、「季節や恒例イベントに引っ掛けられるものは、なんでも形にしてみました」

です。寒くなれば船内で好きな鍋が味わえる「あったか船」、夏には「生ビール祭」を期間限定で運航した時もあった。

「もちろん失敗もありましたよ」と苦笑する岸田さん。看護婦さんの卒業式に合わせて、卒業生をクルーズへ誘導した「看護婦クルーズ」はさすがに「なんやそれ」だが、当時のがむしゃらさが現在の水辺活性につながっているのは間違いない。



川≡陸

川で過ごす時間が長く。

水辺が川に向かって開けていること、川から陸にアクセスしやすくなっていること。これらが中之島にしかないアドバンテージだと感じられたのは、昨年の中之島オープンテラスの盛り上がりだった。「御舟かもめ」と連携し、川から陸へのリレーで、お客さんは長時間水辺で過ごすことになる。

川と街を近づけた前例として、土佐堀通の店舗が土佐堀川沿いにテラス席を設けた「北浜テラス」の支持は今も圧倒的だが、理想は川から船で乗りつけ、そのまま入店できるようになること。不係留や安全性の対策、乗りつける岸辺のオペレーションなど問題が残り、実現にはまだ時間がかかりそう。

一方で、陸のレストランと同じくらい快適にもてなしてくれる船もある。数々の飲食店やホテルを経営するカトープレジャーグループは、昨年一気に2隻の屋形船を就航させた。本業らしく、ベテランの料理人が手がける宴会料理は、地上でいただくのと遜色はない。屋形船体験をしたお客さんは、居心地の良さに必ず驚くのだという。

女将の新田佳子さんいわく、目指すは「東京のように屋形船が当たり前にある川の光景」。何百もある屋形船の中で天ぷらや寿司をいただくのがお決まりの東京に比べれば、大阪の屋形船の数は両手にも満たない。今や、川や水辺だって街の一部。これからはさらに、水陸の境界が曖昧になっていくようになるはずだ。

街と川を近づける中之島の新名物

大阪屋形船

もともと大川を走っていた屋形船の1隻を改装して引き継いだ後、カトープレジャーグループが昨年9月に2隻目の「雅遊」を、同年12月に3隻目の「水雅」を就航。水辺の宴会だけでなく、水上の宴会の需要も高まってきたと実感させられるニュースだ。

こちらの屋形船は従来の古いイメージを一新し、船舶のデザインや船内の設備にこだわりを見せた。ともすれば、街の飲食店よりも居心地がいいかもしれない。しかも一般の店とは違い、年中無休宴会が開けるとなれば、人気のもうなずける。年末年始の忘年会・新年会シーズンはかなり忙しかったそうだが、中之島を周遊する船ならば、桜と天神祭のシーズンも引っぱりだこになりそう。http://www.osakayakatabune.com/



中之島の船団鑑⑥ 「雅遊」&「水雅」

誕生 / 2016年
長さ / 約12m 重さ / 18t・14t
乗客定員 / 28名・24名
新入りの屋形船姉妹。和いすのある和モダンな船内と、巨大な65インチモニターと最新型音響設備が今風。女将が出迎えてくれる。



オープンテラス

大阪市役所の南側にオープンテラスが設置された光景が、去年はけっこう当たり前に映っていた。会社帰りに集まってBBQを満喫したり、カップルが水際でお酒を楽しんだり、これぞ島民ライフのアフターファイブ。

思い返せば、2014年の親水イベント「水の都の夕涼み」の1プログラムから出発し、年々開催期間が延長されている。去年はたっぷり4ヶ月。その中身も民間の人気飲食店がメニュー案や音楽イベントを練り、若者が昼から夜まで長居できるエリアに変身した。特に、「御舟かもめ」で前菜と食前酒を、上陸してメインディッシュのBBQをいただくコースは、今までになかったプログラム。川と川辺、陸はそれぞれ管轄が異なるために手続きが難しく、かなり画期的な実現だった。



中之島の船団鑑⑤ 「御舟かもめ」

誕生 / 2009年 長さ / 約7m
重さ / 2.4t 乗客定員 / 10名
中野弘巳船長が操る「川に浮かぶ小さなおうち」。大きなクッションが目印のウッドデッキは、時にコタツが置かれ、時に船上茶会が開かれたりもする。

【インスタ女子】

「らしくなさ」

「非日常感」を演出できる場所として、中之島の川辺が評価されているというニュースは本誌でも特集したことがある。特に、結婚式。2013年に水辺活性の一環で堂島川沿いにオープンした「中之島LOVE CENTRAL」をはじめ、川辺の結婚式場はかなり選択肢が増えた。中には船とセットのプランまである。空と川をバックに記念撮影をすれば、一見大阪とはわからないロケーションだ。

昨年の秋には、中之島バンク스에ガラス張りの水上チャペルが誕生。昼間はハワイアンカフェとして利用されていて、水辺ならではの開放感がリゾートに憧れを抱く女子にウケがいい模様。冬期の川辺は寒いのでは？と思うが、シーズンを外せば割安で、若い

カップルの予算に優しい。式場選びの最終判断はやはり女性の意見が強いのか、まだ当分飽きられることはなさそう。実は中之島、女子にモテるスペックを備えた場所だった。

女子ウケといえば、あの北浜テラスに加わった新入りのカフェ「& ISLAND」[MOUNT]はごらみて女子好み。「Brooklyn Roasting Company」[NORTH SHORE]に続き、中之島の川をアメリカ西海岸に見立てた店づくりが流行のようだ。



女子ウケで街が変わった！

【NORTH SHORE】

北浜の人の流れを、決定的に変えた店といえばここ。若い女性の間でハワイアンスタイルが流行し、色とりどりの野菜や果物を使ったフォトジェニックなランチプレートが連日売切必至。2015年に2階にテイクアウト専用フロアがオープンし、これまたインスタ映えするランチがピクニック気分を楽しめるようになった。鮮やかなお弁当は、水と緑に囲まれた中之島公園との相性がいい。さらに、昨年は冬季限定でパーティー貸切用フロアの受付が始まった。

☎06-4707-6668 7:00AM~10:00PM
http://northshore-hanafru.com/

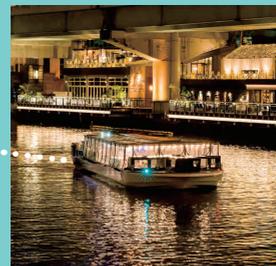


【中之島LOVE CENTRAL】

施設内のブライダルスペース「中之島リバーワンダーランド」にはチャペルありバンケットルームあり、それだけでもオフィス街の中之島とは思えない。さらに外に出れば、美しい水晶橋と大阪市中央公会堂、川をバックに阪神高速道路が天井に走り、大阪らしいような、らしくないような不思議なロケーション。非日常感にとどめを刺すのは、会場前から出航するカスタマイズクルーズ。中之島の水辺にリゾート感を見出す女子のツボをついている。https://love-central.jp/

中之島の船図鑑⑦ 「GRACE 1」

誕生/2015年 長さ/15.3m
重さ/19t 乗客定員/50名
全天候型・冷暖房完備の少人数パーティーにもってこいなボート。前方にはソファを置いたラウンジスペースがあり、ナイトクルーズなら雰囲気たっぷり。





「MOUNT」をプロデュースした株式会社ホーンツの山本七絵さんによると、ニューオープンの広報は大々的に行っていないにもかかわらず、写真を加工して投稿するInstagram利用者の中で急速に話題になり、人気メニューとその空間をおしゃれに撮影し、自らのアカウントで紹介するお客さんが増えているのだそう。

トレンドは、店の中心にでんとかまえる、杉の一枚板のカウンターテーブル。一昔前の口コミに代わるSNSが、店の広告代わりになってきている。

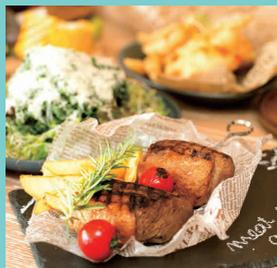
さて、これまでは金融街のイメージだった北浜。その頃のお客さんは今どこに？実は「MOUNT」のスタッフの半数は、元あった純喫茶のスタッフ。「変わってもうたなあ」と言いつつも、常連さんは変わらず常連さんらしい。

2008年の社会実験を経て、北浜テラスが根を張ってもうすぐ10年。一見成功に見えるが、少なからず陸と川をつなげる」という当初の意思と異なってきた部分はある。お客さんの快適さを約束しようと、オーニングやストープで自然の風の気持ちよさを排除してしまうなど、かえって川との距離が出てきてしまった。川の魅力が拡散されていく一方、人々の興味と「テラスが使えて当たり前」の状況が今後どうなっていくのか、見守りたい。

もちろん良いニュースもある。テラス設置に尽力したNPOと北浜水辺協議会の功労を称え、2016年度「関西まちづくり賞」が贈られることになったのだ。表彰式はこの4月だ。



2016~17の新入りテラス



【MOUNT】

老若男女から支持が集まる、名物の揚げパン。今風なのにレトロなスイーツ、水辺なのにこの店名というギャップが、一見さんの興味を引く。注目は「シナモンキャラメルベーコン揚げパン」。砂糖の甘さと挟まったベーコンのしょっぱさが絶妙のタッグを組む。

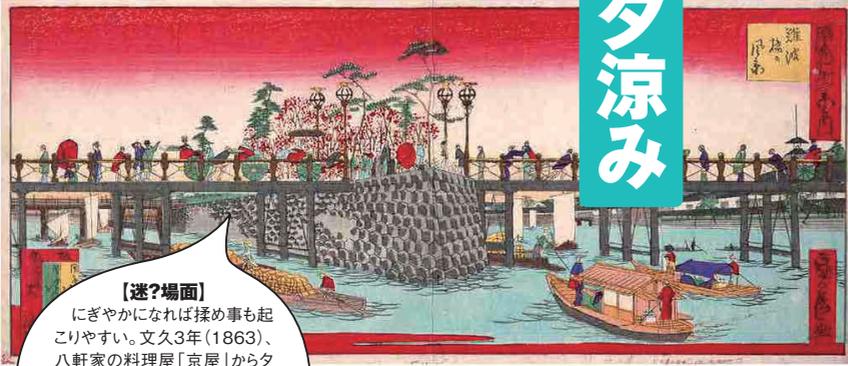
土佐堀通からものぞける入口では、服地選びから仕立てまでオーダーメイドの洋服を扱う「エヌ」がミシンをカタカタ。カフェの雰囲気や溶け込んだ絵になる姿に、思わずスマホに手が伸びる。☎06-6227-8024 10:00AM~6:00PM (土曜11:00AM~6:00PM、日曜・祝日11:00AM~5:00PM)

【& ISLAND】

中之島バンクスのウェディングスペース [LA TERRASSE NAKANOSHIMA] の運営会社によるカフェ。あちらのチャペルの打ち合わせは、このカフェで行われるらしく、中央公会堂を臨むロケーションの良さで、花嫁の心を掴む。

昼はボリュームのあるサンドイッチやコーヒーがスタンバイ。夜は肉バルという顔を持ち、豪快に焼き上げたシュラスコやスペアリブの肉塊は、やはり撮りがいがある模様。テラス席に個室もあり、奥行きもあって広い。☎06-6233-2010 11:00AM~10:00PM <http://andisland.com/>

「浪花十二景之内」より「難波橋の風景」(大阪府立中之島図書館蔵)



夕涼み

【迷?場面】
にぎやかにすれば揉め事も起こりやすい。文久3年(1863)、八軒家の料理屋「京屋」から夕涼みがてらに船に乗り、鍋島浜から曾根崎新地へというコースをたどり、北新地で大阪相撲の力士と死傷事件を起こしたのは、壬生浪士組(後の新選組)だった。

江戸時代から中之島の水辺の遊びと言えば、やはり夕涼み。大川の日満橋から中之島東端にかけての帯は、夏ともなればたくさんの舟が行き交った。浜辺では小さな納涼舟が客待ち。涼を求めて人々が集まってくるため、祭りでもないのに橋の上には屋台が並び、有料の納涼台が出ていた。幕末から明治期にかけては、こうした光景が日常だったらしい。

水辺の遊び 名&迷場面

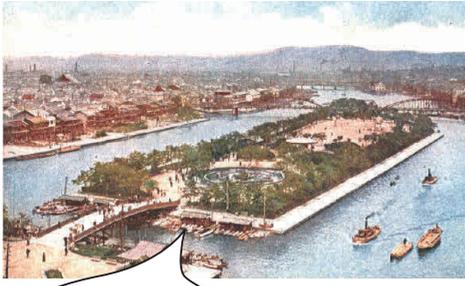
取材文 / 大迫力(本誌)

今でもやってみてみたい粋な遊び方から、「こんな遊びはイヤだ!」の迷場面まで。

茶船

お茶を売る舟ではない。舟遊びの客をターゲットにして、鮎や酒、果物などを売ろうとする舟をこう総称した。品物だけでなく、落語舟や浄瑠璃舟など芸能を演じる舟もあり、お金を払って芸を見聞きし、それが済むと互いの舟はまた離れる。その他にもあんま舟があったり、花火舟に至っては一体どんな商いをしていたのだろうか。いずれにしても、舟は今よりずっと身近だった。

「堂島及土佐堀の大流に浮ぶ中之島公園」(大阪市立中央図書館蔵)

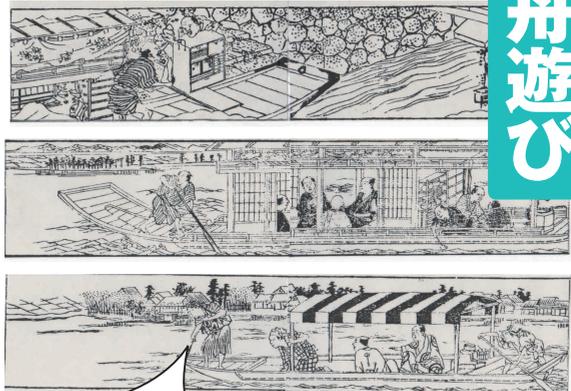


貸しボート

【迷?場面】
大人気の貸しボートだったが、だんだんと川の水質汚染が深刻に。水面には蚊が飛び交い、頭上をコウモリが舞う。さらに、整備によって川幅が狭くなると、速くなった水流に翻弄されるボートが続出。100年の恋も醒めるケースもあったとかなったとか。

時代は変わって昭和初期。現在のばらぞの橋あたりに、貸しボート屋が見える。昭和の中頃まで、ボート遊びは中之島の風物詩。昼休みや会社帰りのアベックがござって繰り出し、何百艘ものボートが浮かんでいたという。日が沈んだ後はろうそくを灯し、それはそれは幻想的な空間だった。

「即席料理 素人廻丁 初編」(個人蔵)



舟遊び

【迷?場面】
舟遊びを陸から見ると羨ましく思えるのは古今共通らしい。かの有名な適塾生もご多分に漏れず。芸者に三味線を弾かせて遊ぶ大尽たちに腹を立て、安酒を飲んだ料理屋からくすねた小皿を難波橋の上から投げつける…。そんな荒くれ書生の正体は、若き日の福澤諭吉大先生である。

舟で遊ぶと言っても千差万別。そのバリエーションは現代以上だった。「舟生洲」と呼ぶ舟着場がある川沿いの料理屋なら、舟内に店から料理や食器を運び込み、さながら川をゆく料亭を仕立てる(上・中)。かと思えば、何が食べられるかは触先で網を張る漁師の腕次第といった気楽なノリのものも(下)。釣れなかった時は? いやいや、それも含めた遊びだった。

こんな遊びも。



(個人蔵)

戦時下の中之島公園の様子
昭和17年(1942)に出版された『銃後の大阪』という雑誌に、中之島公園が描かれている。戦時中らしく、零戦らしき飛行機が低空飛行。戦意発揚のための国民の模範的な生活態度を説くのが目的だが、ただのキャッチボールを手榴弾を投げるのにも役立つ、とするのがスゴい。



(大阪府立中之島図書館蔵)

「なにわ十六橋智恵の渡」
「ケーニヒスベルグの橋」という有名な問題がある。川に架かる7つの橋を、2度通らずにすべて渡り、元の場所に帰るにはどのようなルートか(ただし、どこから出発しても可)というもの。それを中之島周辺の16の橋でやってみたのがこちら。娯楽のための刷り物として売り出されたい。江戸時代後半のもの。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

日本人はなぜ
城が好きなのか？



◎今月の授業

【大阪城】

2017年5月講座

「大阪城から見る、 城好きニッポン」

講演／宮本裕次(大阪城天守閣 研究副主幹)

観光スポット？いや、地元のシンボル？
復興を繰り返した大阪城の歴史を紐解けば、
城を愛する日本人の心が見えてきた。

連日国内外から観光客が集まる大阪城は、押しも押されぬ大阪のシンボル。石垣に櫓に門と見どころは数多いが、特に人気が高いのはやはりフォトジェニックな天守閣。昭和6年(1931)に市民の寄附を元に復興されたもので、コンクリートによる建築技術は「大阪城方式」と呼ばれ、昭和の復興天守ブームの際に全国に伝播するなど、その建築史的評価は高い。

ところが、姫路城の保存修理や木造による復元が計画中の名古屋城など、創建当初の「オリジナル」志向が強まった近年は、コンクリートによる復興天守を軽んじる向きもあるのだとか。それもまた、城郭を愛して止まない日本人の心性の表れと言

えるかもしれない。

今また城ブームと言われる中、大阪城天守閣の宮本裕次先生が満を持してご登場。豊臣秀吉による築城から大坂の陣での落城、そして大正時代の復興という歴史を紐解きながら、時代ごとに大阪城が担った役割を解説してもらう。また、城郭史の観点から、日本社会と城の結び付きを概観。なぜ日本人はこんなに城が好きなのか、じっくり掘り下げていただきます！



みやもと・ゆうじ
大阪城天守閣 研究副主幹。
専門は日本近世史・地域史。大阪城の歴史にかかわる多数の展覧会を担当。徳川時代大坂城の実態解明にも取り組む。

最近うわさの
あんな城や、
こんな城の解説も



熊本城



名古屋城



昭和初頭、建設中の大阪城。施工を担当した大林組は「大阪の市民を挙げての大事業である」と取り組んだ。

募集要項	<p>「大阪城から見る、城好きニッポン」</p> <p>日時／2017年5月12日(金)</p> <p>7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～)</p> <p>会場／大阪市中央公会堂 小集会室</p> <p>受講料／1,800円(大阪城天守閣オリジナルクリアファイル付き)</p> <p>定員／100名</p> <p>主催／ナカノシマ大学事務局</p> <p>協力／大阪城天守閣</p>	<p>お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。</p> <p>〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学5月講座」受付係 FAX.06-4799-1341</p> <p>※先着順で受付後、4月20日前後より受講票をお送りします。</p> <p>※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。</p> <p>※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。</p> <p>※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◎5月27日(土)「大阪・高低差地形入門」エキストラ講座開催が決定！

定員に達しましたので、4月22日実施分の募集は締め切らせていただきました。ご好評につき、日にちと会場を変え、エキストラ講座を実施します。

日時／5月27日(土)2:00PM～3:30PM頃(開場1:30PM～) 会場／中央電気倶楽部 大ホール 受講料／2,000円(マップ付き) ※講演内容は4月講座と同じです。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

大阪・京都文化講座(前期)

「大阪・京都の『一大事』」

—災害・動乱・革新—



コーディネーター:藤巻 正己(立命館大学文学部・教授)、金水 敏(大阪大学大学院文学研究科・教授)
共催/大阪大学大学院文学研究科、大阪大学21世紀懐徳堂、立命館大学文学部



あなたの知的好奇心を専門家がバックアップ!

立命館大阪梅田キャンパス公開講座

各分野の専門家を講師に迎えた20の講座がスタンバイ。
学び続けたい社会人の方にも是非参加してほしい、4月からの時間割です。
ただいま、新規受講生を募集中!

<p>5 6/12(月)</p> <p>「江戸開府は京都の一大事?」</p> <p>中本 大(立命館大学文学部・教授)</p> <p>なぜ徳川家康は京を離れ、江戸に幕府を開いたのか。京の人々はそれをどう見ていたのか。「イメー」戦略をキーワードに解き明かす。</p>	<p>1 5/15(月)</p> <p>「『平安時代』の終焉 —『平安』でなかった平安京—</p> <p>杉橋隆夫(立命館大学文学部・名誉教授)</p> <p>平安京は、数々の政争や戦乱に悩まされ続けた都市だった。京をめぐる戦乱を回顧し、平安から鎌倉への時代の転換を論じる。</p>
<p>6 6/19(月)</p> <p>「EXPO'70 大阪万博の時代と大阪の前衛美術」</p> <p>橋爪節也(大阪大学総合学術博物館・教授)</p> <p>1970年に大阪で万博が開かれて50年近く経つ。戦後美術の動向も踏まえながら、EXPO'70 大阪万博について回顧する。</p>	<p>2 5/22(月)</p> <p>「上方落語・危機一髪」</p> <p>金水 敏(大阪大学大学院文学研究科・教授)</p> <p>「上方落語は死んだ」とまで言われる程の戦後の落ち込みを立て直したのは、「四天王」と呼ばれる落語家たちだった。</p>
<p>7 6/26(月)</p> <p>「東京奠都とその後の京都」</p> <p>山崎有恒(立命館大学文学部・教授)</p> <p>明治維新により大打撃を受けた京都。「米百俵」をスローガンに立て直した町衆たちの面白くも悲しい物語について紹介する。</p>	<p>3 5/29(月)</p> <p>「平安京を襲った大火災 —炎の連鎖の中に生きた人びと—</p> <p>片平博文(立命館大学文学部・特別任用教授)</p> <p>平安時代の大火災から、火災の驚異的な広がりや、発生時の自然的条件などを歴史地理学的な視点から捉える。</p>
<p>8 7/3(月)</p> <p>「大塩事件—鎮圧にかかった武士—」</p> <p>岩城卓二(京都大学人文科学研究所・准教授)</p> <p>蜂起した側から語られることが多い大塩事件だが、鎮圧で功を上げ、人生が大きく変わった幕府代官所役人の視線から考える。</p>	<p>4 6/5(月)</p> <p>「えらいこっちゃ、こら一大事や! —大坂の幕末—</p> <p>高島幸次(大阪大学・招へい教授)</p> <p>嘉永七年(1854)、天保山沖にロシア船「ディアナ号」が現われ、大坂の幕末は始まった。狂騒の大坂にタイムスリップ!</p>

受講料:1回1,700円(全8回一括申込・振込の場合、12,000円) ※誌面の都合上、講座概要については一部省略し、掲載しております。
※事情により、やむを得ず、日程・テーマ・講演者などが変更になる場合がございます。



地下鉄谷町線 東梅田駅から徒歩1分/地下鉄御堂筋線 梅田駅・阪神 梅田駅から徒歩3分/JR大阪駅・阪急梅田駅から徒歩5分

会場/大阪富国生命ビル5階 立命館大阪梅田キャンパス
(〒530-0018 大阪府大阪市北区小松原町2-4)

時間/各回とも2:00PM~3:40PM

定員/各回100名(先着順) ※要事前申込 ※人気の講座のため、掲載時、既に満席となっている場合がございます。予めご了承ください。

●お申込み方法 下記お問合せ先へ「受講申込書」をご請求ください。

●お問合せ先
立命館大阪梅田キャンパス(大阪富国生命ビル14階)公開講座事務局
TEL.06-6360-4895(平日:9:00AM~5:30PM、土日祝休)
FAX.06-6360-4894 E-mail.osaka-kz@st.ritsumeikan.ac.jp

●詳しい講座内容については、ホームページをご覧ください。
「受講申込書」は、下記URLからもダウンロードできます。
<http://www.ritsumeikan.ac.jp/osakaumedacampus/>

立命館大阪梅田キャンパス



大阪富国生命ビルで開講中

2017年度 立命館大阪プロムナードセミナー

「言葉の身づくろいと遊び」



木津川 計
(上方芸能評論家 / 元立命館大学・教授)

見苦しくないよう人は服装を整え、身づくろいに気を遣う。同様に、言葉も聞き苦しくなく、読まれて恥をかかぬよう人は留意します。いわば言葉も身づくろいなのです。服装に種類があるように、言葉も改まったり、くだけたりします。私が上梓した「ことばの身づくろい」を中心に、楽しく語ります。

- 1 5/12(金) 「大阪のしゃれ精神」
- 2 6/9(金) 「ウイットとエスプリ」
- 3 7/14(金) 「言葉遣いと心くばり」
- 4 9/15(金) 「漢字の感じと知恵」
- 5 10/13(金) 「言葉への向き合い方」
- 6 11/10(金) 「変わる日本語への対し方」

受講料:1回1,700円(全6回一括申込・振込の場合、8,500円)

「落語を通して語る 戦争・平和・人権」



安斎育郎
(立命館大学・名誉教授 / 安斎科学・平和事務所 (ASAP) 所長
/ 立命館大学国際平和ミュージアム・名誉館長)

今年日本国憲法が施行されて70年目。政権が改憲を視野に入れつつある中で、さまざまな立場からの議論が展開されるでしょうが、憲法の根底にある平和や人権の問題について、私が愛読する「寄席芸人伝」とっかかりに「落語」の世界を通じて考えてみましょう。

- 1 4/25(火) 「破礼噺花蝶」
- 2 5/30(火) 「噺家戦記 柳家円治」
- 3 7/4(火) 「与太郎戦記 一戦場にかける恋」
- 4 8/29(火) 「動乱幸助」
- 5 10/3(火) 「地獄巡り 柳家吉松」
- 6 11/28(火) 「名残の雪 三遊亭新朝」

受講料:1回1,700円(全6回一括申込・振込の場合、8,500円)

記録する建築

(仮称)大阪新美術館について

2月2日、大阪市中央公会堂の中集客室は、午後2時の開会を前にすでに熱気と緊張に包まれていた。

中之島に建つ新しい美術館の建築設計コンペ、その公開プレゼンに300人を超える人々が集まったのだ。関係者席も埋まり、テレビカメラも数台入っている。平日の昼間とは思えない。驚きと共に、長く中之島に関わってきた者としては、関心の高さに少し安

第0回 プロセスの意味

心感も覚える。公開コンペなどそうそう見られるものではない。しかも、計画が発表されてから30年以上も経過している美術館である。どことなく怖いもの見たさといった空気も漂っていた気がする。

この日行われたのは、(仮称)大阪新美術館の公募型設計競技の第2次審査のプレゼン及びヒアリングである。昨年10月に第1次審査が実施され、68者の中から選ばれた7者が、7人の審査員の

目の前でプレゼンすると共に、審査員からの質問に答える。この時点において、最優秀案すなわちコンペの勝者の決定は、2月中旬とされていた。

定刻通りに
始まった公開



コンペは、くじ引きで決められたという順番に従って進められた。トップバッターは横総合計画事務所。続いて日建設計大阪オフィス、佐藤総合計画、休憩を挟んで梓設計・RUR ARCHITECTURE DPO共同企業体、最後に遠藤克彦建築研究所のプレゼンとヒアリングが行われ、閉会した。それにしても、明治時代に名だたる建築家を集めたコンペを経て建てられた中央公会堂で、同じ中之島の新しい美術館の公開コンペをやるなんて、とても粋だ。そう言えば中央公会堂は、来年で

100周年を迎える。同時に建築コンペという営みにも強く惹かれた。誰が勝つか、もちろん気になる。しかし、それが導かれる一つ一つのプロセス—なぜそのような案になったのか、どのように選ばれたのかも大事なのではないか。

2月9日、最優秀案は遠藤克彦建築研究所に決まったと発表されました。この連載では、中之島に新しい美術館ができるまでを記録していきます。

取材文 大迫力本誌

四月席のメニュー

申込受付中

●お題「老い」

「老いを笑えるか」

日本に限らず、高齢化が問題になっているのは皆さんご存じのとおり。笑えないテーマではあるが、あえて「老い」を笑いに変えた落語の数々を楽しもう。ゲストは、認知症を扱った小説「老乱」で話題の久坂部羊さん。認知症の老人とそれを介護する家族、双方の視点で描いた作品だ。現役医師だからこそいえる医療現場事情と、老いや病気を怖がらない心構えを語る。

落語／桂三扇「いちゃんホスト」

桂三象「シルバーウェディングベル」

林家菊丸「看板のピン」

笑福亭竹林「死神」

桂きん枝「一文笛」

鼎談／笑老病死を語る

ゲスト／久坂部羊（作家・医師）

高島幸次（大阪大学招聘教授）

桂春之輔

作家で医師の久坂部羊先生が、高齢化が進む上方落語界に貴重なアドバイス!

ナカノシマ大学でお得な前売り券を発売中!

開催日／4月25日(火)

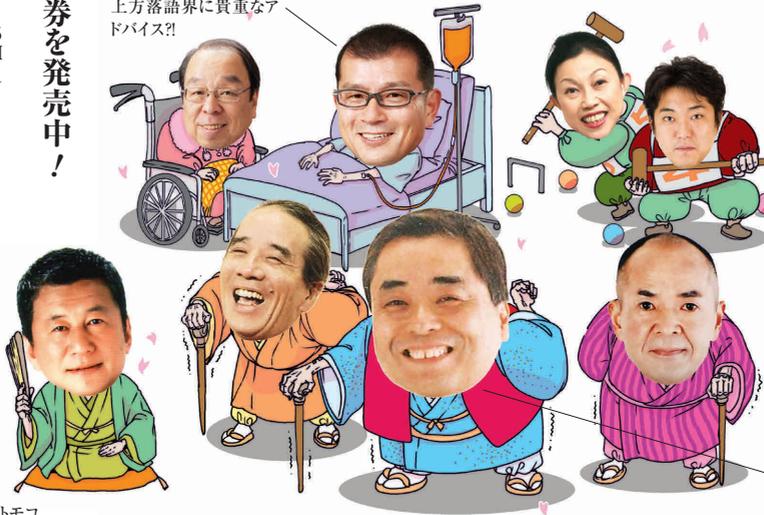
開演時間／6:30PM(開場6:00PM)／受付開始5:45PM)

受講料／2300円(通常)・前売2500円／当日3000円)

お支払い方法／当日(5:45PM)、繁昌亭入口付近の「ナカノシマ大学受付」にてお支払いください。

※予定枚数に達し次第、予約受付を終了します。※ナカノシマ大学では当日券の販売は致しません。

●お申し込み方法、お問い合わせ先はP9を参照してください。



桂きん枝さんの「一文笛」には、現在の医療問題にも通じる医者と患者のやりとりが登場。

イラスト/フジワラトモコ

二月席のメニュー

御茶場御礼

鼎談／「米澤彦八トリビュート」地口・軽口・語呂合せ

木下昌輝 高島幸次 桂春之輔

高 木下さんは昨年、「天下第一の軽口男」という米澤彦八を主人公にした小説を上梓されました。

木 元禄時代の少し前、江戸・京都・大坂の三都に、落語の祖と言われる人がほぼ同時期に現れたんですね。京落語の祖は露の五郎兵衛さん。現在の露の一門に繋がる方です。江戸に現れたのが、鹿野武左衛門さん。そして、少し遅れて出てきた米澤彦八。生魂現神社で落語の原型といわれる芸をしていました。

春 彦八は、私らにとって

高 固有名詞から一般名詞になっていったということですね。でも、彦八は有名な割には史料が残ってないんです。この小説では落語の祖とされる3人の交流も描かれていて、木下さんの物語をつくりあげる想像力が見事でした。

木 彦八と鹿野武左衛門はどちらも難波出身ですし、絶対に繋がりはあるはずと推理していきました。実は、露の五郎兵衛と鹿野武左衛門は、共同でお笑いの本を出版していたんです。彦八も、落語のマクラに露の五郎兵衛をリスペクトしたかのような面白い話を入れたりして。

春 ほー、それは知らなかった!



クルーが毎月繰り返す！

大阪水上バスの クルーズ歳時記

クルーズで妄想しよう

毎日のように水辺に多くの人が集まり、そして観光船に乗る。船内での過ごし方も多様化してきました。乗船時間いっぱい目を皿のように何が見えるか探していた観光から、景色をゆったり鑑賞する。そんな人たちも増えてきました。ずっとお喋りしている人も、携帯で自撮りしている人もいます。船内という、制約された環境の中でどのように楽しむか？ 今後の我々の大きな課題です。



大阪水上バス
企画宣伝部
岸田俊徳さん



先日、アクアライナーの船内でプロポーズをしていたカップルがいました。たぶん川沿いのレストランで式を挙げるのでしよう。彼氏は、川沿いのウェディングレストランが見えた瞬間、彼女に指輪を渡し、プロポーズ！ サプライズだったのか、彼女の喜ぶ姿がとても印象的でした。

たとえば、船の外に目をやると、カップルや家族連れが水辺を散策しています。そんな人たちの幸せを眺めてみる。普段、会社ではイライラすることも多く、目も吊り上がりがちな日々。風景の中にあふれる幸せを見つけることで、少し心も穏やかになったりして。

あるいは、ここは川ではなく外海。長い船旅を妄想すれば、あっという間に乗船時間を満喫できます。春の陽気は、妄想クルーズにぴったりですよ。

アクアライナーは毎日運航中！
料金／大人1,700円 こども(小学生)850円
※春学期間は、大人2,000円 こども(小学生)1,000円
運航時間／10時台～17時台
(所要時間:周遊約60分)

大阪水上バス アクアライナー

☎06-6942-5511(予約優先制)

こちらまちづくり



大阪水上バス

<http://suiju-bus.osaka/>



待ちに待ったツインタワーが完成！
フェスティバルシティ「の街」の街は、

来る4月17日(月)、中之島フェスティバルタワーの西向かいで、「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」が開業する。建設中の姿は本誌でも取り上げてきたが、やはり四つ橋筋を挟んでそびえる超高層ツインタワーの街「フェスティバルシティ」は圧巻だ。

新しいタワーの地下1階から2階は商業ゾーン。その顔ぶれは、大阪初出店の和食ダイニング「Dynamic Kitchen & Bar」や、気軽に懐石料理を味わえる「福吉兆」など17店舗。新築の店舗が多く、華やかな新拠点への意気込みがうかがえる。ビジネスランチにも、ハレの日にも使えるといううたい文句がオフィス街らしい。

トウミン月報

2017年4月1日発行

FESTIVAL CITY

フェスティバルシティ
中之島フェスティバルタワー・ウエスト
4月17日(月)オープン
<http://www.festival-city.jp/>



2F 福吉兆



2F Dynamic Kitchen & Bar 響

ここ数年ですっかりきれいになったけれど、その先のビジョンは？ 中之島や天満天神エリアの未来について、夢を持って語り合い、発信するべく、「中之島アイランド・ミーツ」が開催された。

中之島には水都大阪にふさわしいシンボルが必要といった意見や、海外の街を例に挙げた観光のヒントなどが披露され、登壇者それぞれの街への思い入れや、ポテンシャルに対する期待の高さがうかがえた。(天迫力・本誌)

中之島&天満天神エリアの未来は？
アイランド・ミーツ開催





「見えないところにも、鳥取市の食材を使っています」

店名の「麒麟のまち」とは、ずばり鳥取県東部と兵庫県北部のことなんです。江戸時代の頭に、鳥取藩主のもとで始まった「麒麟獅子」という獅子舞が、やがて因幡国（鳥取県東部）の名物になり、ご近所の但馬国（兵庫県北部）に伝わったそうです。そんな350年以上続く伝統芸能にちなんだ拠点の厨房で、庖丁をにぎる。背筋が伸びますね。

「麒麟のまち」は、食を通して鳥取市周辺の文化や最新情報を発信しようというアンテナショップです。特産品が買えるスペースの横にレストランが併設され、そこで出す料理には鳥取市の食材をメインに使っています。実は、大阪で長く料理人を務めてきました。鳥取産の食材を強く意識したことはありませんでした。そこで今回、メニューを考えるうえで鳥取市を訪れてみました。驚いたのは、野菜も肉も魚も、何を食べても美味しかったこと。現地の方は、食材が新鮮なので、最低限の調理しか施しません。野菜は生で、魚はさつと焼くだけなのに、それが素材自身が持つまみを生かして



かしていました。でも、せっかく大阪の人たちに食べてもらうなら、私なりの工夫を加えたいと思っただけです。たとえば、鳥取市気高町の「日光生姜」や「砂丘らっきょう」



新オープン!4月10日にお待ちしています

【麒麟のまち】
料理長
田中健一さん

を味わってもらいたいです。特定の地域の食材ばかりを扱うのは初めてでしたが、鳥取市長をはじめ、試行錯誤したメニューが地元の方々から好評だったのが嬉しかったですね。「こう料理すればもっと美味しくなるのか!」と、そんな発見にもつながってもらえれば。試食会では「ランチのハタハタは大きいもの1匹よりも、小さなもの2匹のほ

のような、メインの食材を引き立てる名産品は、豚角煮やタルタルソースに入れてこんで活躍させる。そして、味の決め手になる調味料も鳥取のものを使ってみました。魚料理なら、鳥取でつくられた醤油で、鳥取の漁港から届いた魚を煮付けしてみる。メニューには書いていない、見えないところにも鳥取市の食材を使っているの、お客さんにはその取り合わせ

うが食べやすいんじゃないか」などのアドバイスも。「麒麟のまち」は、地元の人々と一丸になってつくられているんです。夜はぜひ、鳥取県でしか作られてない酒米「強力」を使った地酒を楽しんでください。山海のおすすめのアテを、ちいとう(ちよつとずつ)盛った膳も一緒に。独特の酸味が、珍味の豆腐ちくわや漬物に合うんですよ。



祝祭へようこそ。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>

提供/株式会社 朝日ビルディング

Information from ^{きりん}麒麟のまち [中之島フェスティバルタワーB1階]

鳥取県東部&兵庫県北部の*因但。グルメが楽しめるアンテナショップ。店内でいただける和食中心のランチは、豚角煮定食やチキン南蛮定食(各850円)、鳥取の食材をバランスよく味わえる「きりん御膳」(1,000円)など。洋風のデリをテイクアウトできるのも嬉しい。地酒は30種以上(380円~)揃え、旬のアテもスタンバイ。メニューにある特産品は、併設の物販スペースで購入できるものも。☎06-6202-5335 11:00AM~11:00PM(情報案内コーナーは7:00PMまで)



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!



『月刊島民』はここでられます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/テリスタ天満橋店/ホテル京阪 天満橋/ホテル京阪 京橋 グランデ
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店]旭屋書店 梅田地下街店/紀伊國屋書店 梅田本店・グランフロント大阪店・本町店/ジュンク堂書店 大阪本店・梅田ヒルトンプラザ店/天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など]アイスポット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立科学館/大阪市立総合生涯学習センター/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪梅田サテライト/川の駅はちけんや/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪シティキャンパス/国立国際美術館/CITYNAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/少彦名神社/中央電気倶楽部/適塾/ドーチカ/ホテルNCB/メビック扇町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス [店舗・医院など]アートル 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前製料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/エルマーズグリーン コーヒーカウンター/大西洋服店/OOO(オー)/カセット/喫茶カンターロ/喫茶SAWA/グランスイート中之島/黒門さかえ/コモカフェ/The Court/サトウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/シアトルベストコーヒー新聞電ビル店/じろう亭/Girond's JR/心齋橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャーノ/バスターレー/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/FOLK/フレムハウス/ミニシロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店]旭屋書店 なんばCITY店/紀伊國屋書店 京橋店/ジュンク堂書店 難波店/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など]大阪科学技術館/大阪市社会福祉研修センター/大阪市立中央図書館/大阪府立江之子島文化芸術創造センター/川口基督教会 [店舗・医院など]あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパル/大阪シティ信用金庫 江戸堀支店/御舟かもめ/カルチャーカフェ上方/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/バルビコ/ホテル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 Books 呼文堂/水嶋書房 千早はるもろ店/大阪狭山市立図書館/大阪市立難波市民学習センター/大阪大学企画部広報・社会学連携事務室/大阪大学 21世紀機構堂/大阪大学本部/大阪府立中央図書館/摂南大学 地域連携センター/野村呼文堂/郵政考古学会/ゆったりんこ/連携考房 童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/恵文社 一乗寺店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/川のほとりの美術館/納屋工房/タバーン・シンパソン/百歳/奈良県立図書館情報館/龍谷ミュージアム
- 東京 往来堂書店(千駄木)/BOOKSルーエ(吉祥寺)/B&B(下北沢)/隣町珈琲(荏原中延)/ONLY FREE PAPER(東小金井)/かもめブックス(新宿)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 ステレオタイプをぶっ飛ばせ。

「東洋のシテ島」や「水の都」、「天下の台所」に「東洋のマンチェスター」。中之島につきまとう常套句やイメージは正しいのか、再検証していく。

●『月刊島民』vol.106は2017年5月1日発行です!

編集・発行人/大迫 力(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社

京阪のる人、 おけいはん。



駅から祇園に
おさんぽです。

祇園四条駅下車「祇園異橋昇隈」
出町柳けい子



www.okeihan.net

沿達おけいはん 検索  